



(パネリスト紹介)私を取り巻くダイバーシティ

| | |
|-----|---|
| 著者名 | 長嶋 光樹 |
| 雑誌名 | 東京女子医科大学女性医師・研究者支援センター女性医師支援シンポジウム抄録集 |
| 巻 | 平成25年度 |
| ページ | 15-15 |
| 発行年 | 2013-05-25 |
| URL | http://doi.org/10.20780/00031949 |

パネリスト紹介

長嶋 光樹 (ながしま みつぎ)
東京女子医科大学病院 心臓血管外科
准教授

略歴

1987 年 3 月 北海道大学医学部医学科卒業
1987 年 5 月 東京女子医科大学 日本心臓血管研究所心臓外科入局
1996 年 7 月 ハーバード大学小児病院 心臓血管外科研究員として留学
2000 年 4 月 愛媛県立中央病院 心臓血管外科に入局
2008 年 4 月 愛媛大学病院附属、心臓血管外科 准教授
2012 年 4 月 東京女子医科大学 心臓血管外科 准教授

私を取り巻くダイバーシティ

我々、心臓外科領域は、このダイバーシティ・マネジメントからもっとも遅れた分野の一つです。私の知る限りでも、日本における女性の心臓外科としてのチーフサーजनは1人しか知りません。当然のことでもあるのですが、我々の分野は、手術がうまいことが、要求され、少し言い過ぎかもしれませんが、手術がうまいということが、唯一の価値観になっており、ダイバーシティの概念からはかなりかけ離れています。私個人的には、手術がスーパーにうまくなくても（スーパーサーजनでなくても）、学生や研修医の教育、術前術後の管理、心臓外科領域での研究など、手術以外でも、高い能力が必要とされますので、各分野でのダイバーシティ的概念は必要かなと思います。我々の医局には、現在、立石先生も含めて、7人の女性心臓外科医が所属していますが、彼女らが、心臓外科医として成功することが、日本における心臓外科領域での新たなモデルになると考えており、協力を推し進めていきたいと考えています。医師の分野では、我々の世代は、同期の女性医師が男性医師に比べて1割ほどしかいませんでしたので、女性の上司に指導を仰ぐ経験も少なく、女性医師の指導者を受け入れられない医師も、特に外科医は、多いと思われます。最近、医師の4割近くが女性ですので、若い医師たちは、普段から、女性医師の指導を受けることも多く、ダイバーシティ的概念の受け入れる環境は整いつつあるかなと考えています。